

●機械システム工学専攻(領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
機械システム工学専攻(領域)	青木 公也 AOKI,KIMIYA 教授 博士(工学)	画像処理、コンピュータビジョンシステム<Image Processing/Computer Vision System> 主に画像処理・AIの基礎技術と産業応用に関する研究を行っている。主宰する研究室では、「画像検査機械(外観検査の自動化)」、「ロボットビジョン」、「運動検出・認識」、「拡張・複合現実感」、「材料物性の画像解析」等のプロジェクトを推進している。また、企業・研究所との産官学連携を通して製造現場の課題解決に努めている。	博士:研 修士:研
機械システム工学専攻(領域)	石原 彰人 ISHIHARA,AKITO 教授 博士(工学)	神経情報処理論<Neuroengineering and Neuroinformatics> 生物の感覚系や脳神経系における情報処理メカニズムに関する研究や、それをサポートする計算科学を応用した研究支援ツールの開発を行う。特に視覚系における動画像処理機構に対して、構成するニューロンの細胞内組織レベルから詳細な数理モデルを構築し、生物の有する基本的な情報処理メカニズムの解明を目指している。	博士:研 修士:研
機械システム工学専攻(領域)	加納 政芳 KANO,MASAYOSHI 教授 博士(工学)	知能ロボティクス<Artificial Intelligence and Robotics> 人と共生するためのロボットについて研究する。具体的には、1)ロボットの身体性に基いた感情表出を行うことで、人とロボットとのコミュニケーションに心理的インタラクションを創発させる、2)不確実性や想定外の変化が起こる実環境に適応的に対処するための制御則を、学習・進化を通じて自動的にロボットに獲得させる、3)ヒューマノイドロボットのモーション生成・制御時の非転倒性や非干渉性などをチーフデザインに基づいて制御する。	博士:研 修士:研
機械システム工学専攻(領域)	木野 仁 KINO,HITOSHI 教授 博士(工学)	ロボット工学/人間工学<Robotics/Human Engineering> 本研究室では、機械工学をベースにメカトロニクスや制御工学、人工知能などを組み合わせた研究として、特にロボット工学・人間工学とその周辺分野の研究を行なう。具体的には、レスキューロボットやロボットマニピュレーション、次世代産業用ロボット、歩行ロボットや生体の筋骨格構造などのテーマに対し、理論解析やシミュレーション、実機による実証実験などを通じて研究を進めていく。	博士:研 修士:研
機械システム工学専攻(領域)	清水 優 SHIMIZU,MASARU 教授 博士(情報科学)	自律移動ロボット/ロボット性能評価手法<Autonomous Mobile Robot/Evaluation Method on the Robot> 小型自律移動ロボットのための要素技術の研究・開発、応用としてレスキューロボット開発とレスキューロボット・サービスロボット性能評価手法研究開発を行っている。 具体的には、小型移動ロボットへの実装を目標に、不整地や瓦礫内移動に対応するシンプルで効率の良い移動機構、軽量なロボット位置測定・地図作成システム、マルチロボットに対応した学習・行動計画ソフトウェアなどの開発、自律レスキューロボット・自律サービスロボットの安全性と性能評価手法の研究・開発に取り組んでいる。	博士:研 修士:研
機械システム工学専攻(領域)	野浪 亨 NONAMI,TORU 教授 博士(工学)	生体材料/材料科学<Bio-material/Material Science> 環境にやさしい(環境調和性)、人にやさしい(アメニティー性)材料を開発する事を目的に、生体材料や環境保全材料、環境低負荷型材料の研究を行っている。例えば、人工骨や人工歯根として応用するための生体に同化するセラミックス、水や空気をきれいにしたり、皮膚や歯の審美性を追及する触媒や、生体を模倣した環境に負荷を与えない製造プロセスなど私たちが安心・安全に生活できる環境を実現する材料(エコマテリアル)を作製し解析、評価を行う。	博士:研 修士:研
機械システム工学専攻(領域)	橋本 学 HASHIMOTO,MANABU 教授 博士(工学)	知的センシング<Intelligent Sensing> ロボットのインテリジェント化のために不可欠な、人工知能に関する研究、とりわけ外界や人間を認識するための知的センシングに関する幅広い研究をおこなっている。特に近年では、「人間の眼」に相当する高度な視覚機能の実現を目指し、世界最高速の画像パターン照合技術や、高精度な3次元物体認識技術、人間の感情や感性を読み取るためのセンシング技術の開発に成功している。また、これらの独自技術を知能ロボットと融合させるための応用開発にも取り組んでおり、Deep Learningなどの最新のコンピュータサイエンスを駆使した実用レベルの知覚システムを実現している。	博士:研 修士:研
機械システム工学専攻(領域)	森島 昭男 MORISHIMA,AKIO 教授 博士(工学)	ロボティクス/メカトロニクス<Robotics/Mechatronics> 本研究室では、強大な出力が要求される災害現場・工事現場の極限作業ロボットから、超精密な動作が必要な手術用マイクロロボット、また、柔軟な制御が欠かせない生活環境ロボットなど、多様な環境におけるロボットを研究対象とする。そして、それぞれの動作環境に最適な形態としてのロボットのデザインを行い、それを実現するためのメカニズム・センサ・アクチュエータなどの設計・製作を行う。さらに、そのロボットの能力を最大限発揮させるための制御アルゴリズムの考案・プログラミングを行う。そして上記全ての検証は、実機のロボットを用いた動作実験により行っていく。	博士:講 修士:研補
機械システム工学専攻(領域)	王 建国 JIANGUO,WANG 准教授 修士(工学)	経営組織論<Organization Theory> 経営組織論は企業の経営活動を円滑に効率よく進めるための分業と協力のあり方を探求する学問である。企業の生産現場から、国民経済・世界経済に至るまで様々なレベルでの経済現象を「競争」と「協働」という二つの観点から捉えられるし、編成することもできる。「協働」と「競争」の視点から経済システム全体を包括し得る枠組みを構築することを研究の目標としているが、実証研究も重視し、特にトヨタ生産システムに代表される生産管理の研究に関心をもっている。	修士:講

●機械システム工学専攻(領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
機械システム工学専攻(領域)	秋月 秀一 AKIZUKI, SHUICHI 講師 博士(情報科学)	ロボットビジョン(Robot Vision) 賢く器用なロボットの実現に向けた知覚技術の研究開発を推進している。特に近年では、ロボットに搭載した距離画像センサから得られる情報を、物体認識・人物センシングに応用する研究に取り組んでいる。具体的には、1)画像に写った物体の3次元位置姿勢を高速・高精度に推定する技術、2)人間のように道具を取り扱うロボットのための動作生成技術、3)周囲の環境に合わせて場にあった振る舞いをおこなうロボットの動作策定技術、である。	博士:研 修士:研
機械システム工学専攻(領域)	杉野 貴明 SUGINO, TAKA AKI 講師 博士(工学)	コンピュータ外科学(Computer Aided Surgery) 外科医療を中心とした医療分野における診断・治療支援技術に関する研究に取り組んでいる。具体的には、医用画像からの解剖構造の自動抽出・可視化、病変の領域検出・浸潤評価による手術方針の決定支援、器具の操作情報解析と画像解析を組み合わせた医療手技評価による手技習熟支援などの研究を推進する。人工知能を応用した医療データ解析を通じて、実用的な医用システムの開発を目指している。	博士:講 修士:研

●電気電子工学専攻(領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
電気電子工学専攻(領域)	青森 久 AOMORI, HISASHI 教授 博士(工学)	知的情報処理<Intelligent Information Processing> 生体の情報処理機構は、非線形素子である神経細胞が複雑に結びついたネットワークの機能により実現されているが、その原理は不明な点が多い。このため、脳や生体にヒントを得た情報処理機構を工学的に実現するだけではなく、神経回路網のダイナミクスの解明や網膜系情報処理機構のモデル化を理論・計算機シミュレーションなどを通して多角的に研究を推進する。	博士:研 修士:研
電気電子工学専攻(領域)	磯 直行 ISO, NAOYUKI 教授 博士(工学)	設計自動化<Design Automation> 近年の集積化技術の発展により、VLSI やプリント配線板などの論理装置の設計データ量が增大している。さらに、今まで考慮していなかった物理的性質が顕在化するようになり、多くの制約を満足できるより良い解を高速に求められる新しい設計手法が望まれている。装置の設計開発期間の短縮のため、効率の良い設計手法や CAD アルゴリズムの開発を行っている。	博士:講 修士:研補
電気電子工学専攻(領域)	高坂 拓司 KOUSAKA, TAKUJI 教授 博士(工学)	断続システム論<Interrupted System Theory> 数学と数値解析法を組み合わせることにより、非線形システム、とくに断続動作特性を有するシステムに見られる現象の柔らかな理解を進めている。また、分野横断的解析手法の知見を活かし、スイッチング電源における電力変換効率の向上、切削系の高性能化、ネットワークルータの通信性能改善、データ駆動型電気回路解析等の研究に取り組んでいる。	博士:研 修士:研
電気電子工学専攻(領域)	須田 潤 SUDA, JUN 教授 博士(理学)	計算材料科学/光物性工学<Computational Materials Science / Solid State Photonics> スーパーコンピュータの出現により、実験が極めて困難な物理現象の情報を短時間で得ることが可能になり、産業界においては、大規模シミュレーションの精密な予測により、製品設計において大幅なコストダウンをもたらすと期待されている。本研究室では、大規模シミュレーションとラマン分光実験の両面から光エレクトロニクス材料やパワーエレクトロニクス材料の高性能化を目的とする研究に取り組んでいる。	博士:研 修士:研
電気電子工学専攻(領域)	竹村 暢康 TAKEMURA, NOBUYASU 教授 博士(工学)	電波応用工学/アンテナ工学<Applied Electromagnetic Wave Engineering / Antenna Engineering> スマートフォンなどに代表される移動通信では、さらなる大容量高速無線通信技術に対する期待が高まっており、また、IoT 技術の進展に伴い、多様なデバイスがインターネットに接続され、相互に通信するシステムが急速に拡大している。本研究室では、無線伝送のデータ量増加に対応するための次世代無線通信アンテナシステムや IoT システム用アンテナ、電波応用として無線技術を利用した新しいエネルギーネットワークに関する研究に取り組んでいる。	博士:講 修士:研
電気電子工学専攻(領域)	田口 博久 TAGUCHI, HIROHISA 教授 博士(工学)	量子効果デバイス工学<Quantum Effect Device Technology> Si を材料系とする電界効果トランジスタ(FET)の高性能化は微細化が中心となってきた。しかし材料系を化合物半導体とし、同時に化合物半導体のナノスケール積層構造を使用することにより、量子効果を得てFET 内部での電子速度の劇的な向上を得た。量子効果デバイスは様々な化合物半導体を用いて構築され実に多彩な性能を示す。これらの量子効果デバイス物性を高周波応答特性と光応答特性の両面から追求し、デバイス内部での電子挙動モデルの解明や、新規デバイス構造の提案・開発を目指す。	博士:研 修士:研
電気電子工学専攻(領域)	中村 久栄 NAKAMURA, HISAHIDE 教授 博士(工学)	電気機器の故障診断<Fault Diagnosis of Electric Machines> モータは自動車や電車をはじめとして、様々な分野で使われており、私たちの生活に欠かすことができない。私たちが通常の生活を送るためにも、モータの状態を診断する技術は必要不可欠である。本研究室では、機械学習やディープラーニングなどの AI 技術を活用することで、モータをはじめとした電気機器の故障診断技術に関する研究開発に取り組んでいる。	博士:講 修士:研
電気電子工学専攻(領域)	ハルトノ ピトヨ HARTONO, PITOYO 教授 博士(工学)	計算知能<Computational Intelligence> 計算機を用いた従来の情報処理アルゴリズムと自然界で見られる「知的」な問題解決手法の間に大きな相違点がある。計算知能の分野では、計算機を用いて神経回路の学習能力、生物又は社会で見られる自己組織化や創発的な集団知能のような従来と異なる問題解決メカニズムの実現を目指す。これにより、新しい計算原理を構築できるだけでなく、生物学、物理学、工学や社会科学などの様々な分野に対し、新しい解析手法と知見を与えることが期待できる。	博士:研 修士:研
電気電子工学専攻(領域)	村中 崇信 MURANAKA, TAKANOBU 教授 博士(工学)	宇宙機工学/プラズマ工学<Spacecraft Engineering / Plasma Engineering> 近年、人工衛星による通信等のインフラは日常生活に不可欠となり、また宇宙探査機による深宇宙探査も拡大しつつある。これらの宇宙機(人工衛星や探査機)は、ミッション中に発生する宇宙プラズマや電気推進機から放出されるプラズマとの相互作用で、その信頼性に大きく影響を受けることが知られている。本研究室では、数値シミュレーションとプラズマ実験でこの相互作用を解析し、宇宙機の信頼性向上につながる技術開発を行っている。	博士:研 修士:研

●電気電子工学専攻(領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
電気電子工学専攻(領域)	平名 計在 HIRANA, KAZUAKI 准教授 博士(工学)	システム制御工学<Systems and Control Engineering> 離散値と連続値が混在する動的システムをハイブリッドダイナミカルシステムといい、近年注目を集めている。機械システムをハイブリッドダイナミカルシステムと捉え、従来容易ではなかった分野へのロボットの適用を図る。また、人間-機械システム、あるいは人間自体をハイブリッドダイナミカルシステムとして取り扱うことで様々な分野への応用を模索する。	博士:講 修士:研補
電気電子工学専攻(領域)	藤田 実沙 FUJITA, MISA 講師 博士(工学)	組合せ最適化<Combinatorial Optimization> 通信網や電力網の設計、スケジューリングなど、現実世界の様々な問題を組合せ最適化問題としてモデル化し、それらに対する高性能な近似解法の研究開発を行っている。特に、様々な問題に汎用的に適用可能なニューラルネットワークを含むメタヒューリスティクスを中心に取り組んでいる。また、現実問題を適切にモデル化するための時系列予測手法の開発にも取り組んでいる。	博士:講 修士:研

●情報システム工学専攻(領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
情報工学専攻(領域)	伊藤 秀昭 ITOH,IDEAKI 教授 博士(工学)	知識工学/データ工学<Knowledge and Data Engineering> 知識工学及びデータ工学は、情報の表現と利用法を高度化するための技術である。知識やデータを計算機で利用するには、より適切な方法でそれらを表現し、表現された対象の検索や更新が適切に行われるようなツールの整備が望まれる。このために知識やデータを表現するための人工知能を応用したソフトウェアツールを研究開発している。	博士:研 修士:研
情報工学専攻(領域)	大泉 和文 OIZUMI,KAZUFUMI 教授 博士(メディア科学)	メディア・アート<Media Art> 今日、メディア・アートと総称される、情報メディアを支援ツールとした視覚芸術を専攻する。作家の立場から、アートとテクノロジーの諸問題を取り扱う。具体的には、① CTG (Computer Technique Group) を中心としたメディア・アート史の研究 ②インタラクティブな機構を取り入れた大規模インスタレーション作品の制作などを進めている。	博士:研 修士:研
情報工学専攻(領域)	小笠原 秀美 OGASAWARA,HIDEMI 教授 博士(情報科学)	認知モデル<Cognitive Modeling> 認知科学、特に学習や実時間環境での認知に興味を持っている。そのために二値データに基づくクラスタリング、高時間圧を持つ課題を用いた問題解決に関する心理実験・観察及びそのデータに基づく計算機モデルの作成などの研究を行っている。またこれらの研究のベースとなる Soar などの認知アーキテクチャにも関心がある。	博士:講 修士:講
情報工学専攻(領域)	鈴木 常彦 SUZUKI,TSUNEHICO 教授 工学士	地域ネットワーク基盤技術<Regional Network Infrastructure Technology> ・地域ネットワーク基盤技術:東京一極集中の日本のインターネットを地域分散するための、ルーティング(地域IX)、コンテンツ配信技術等の研究 ・セキュリティ技術:DNSの諸問題解決、spam 対策技術開発等、インターネット崩壊の危機に対処するための研究	修士:講
情報工学専攻(領域)	瀧 剛志 TAKI,TSUYOSHI 教授 博士(情報科学)	映像処理と可視化<Image Processing and Intelligent Visualization> 画像処理とコンピュータグラフィックスの基本技法の修得、及び、それらを基礎とした応用システムの開発に主眼をおく。特に、人の動作・行動をビデオカメラやモーションキャプチャ装置により取得し、映像や座標データから、行動の意味や目的を分析したり、また、コンピュータグラフィックスやバーチャルリアリティ機器を用いて動作・行動の特徴を分かりやすく表現するための情報呈示技術について研究・開発を行う。	博士:研 修士:研
情報工学専攻(領域)	宮崎 慎也 MIYAZAKI,SHINYA 教授 博士(工学)	リアルタイムCG 応用<Real-time Computer Graphics Applications> コンピュータのグラフィックス能力の飛躍的な向上によりCG を利用した究極のマンマシンインターフェイスが到来した。人工現実感(VR)は現在のコンピュータグラフィックスの主な活用分野の一つであり、この分野で今後重要視される技術として、非剛体物体のモデリング、立体表示システムを中心に新しいVR技術の実現を目指す。リアルタイムCGは、アミューズメントの分野をはじめとして工業、医療など様々な分野で活用されており、将来性が期待されている技術である。それらを実現するために必要となるプログラミングやデバイス制御、アルゴリズムとデータ構造設計について幅広く研究を進めている。	博士:研 修士:研
情報工学専攻(領域)	目加田 慶人 MEKADA,YOSHITO 教授 博士(工学)	医用画像処理とコンピュータビジョン<Medical Image Processing and Computer Vision> 医用画像の診断支援技術に関する研究をおこなう。特に、肺、肝臓、胃を中心に、コンピュータ支援画像診断システムの実現のための技術開発として、臓器の抽出、病変の検出やその進行の程度評価、治療支援に関する手法開発に取り組む。 コンピュータビジョン技術の実利用に関する研究として、自動車内・車外の環境センシングと状況認識に挑戦する。	博士:研 修士:研
情報工学専攻(領域)	山崎 康広 YAMASAKI,YASUHIRO 教授 博士(工学)	高信頼ネットワークシステム<Highly Reliable Network System> 通信の役割は「サイバー空間の情報伝達」から「現実空間の実世界制御」に拡大している。自動運転システムをテーマに「現実空間の実世界制御」を高信頼化(Safety and Security)する技術について研究する。具体的には①自動運転を実現するための車載ネットワークの研究、②V2I(Vehicle to Infrastructure)による遠隔制御システムの研究に取り組む。	博士:研 修士:研
情報工学専攻(領域)	山田 雅之 YAMADA,MASASHI 教授 博士(工学)	知能情報処理<Artificial Intelligence> 知的に振舞うメディアの実現を目的に知能情報処理の基盤技術とその応用を研究する。具体的には、画像処理やコンピュータグラフィックスなどの画像メディア技術と知能処理技術を利用した新しいインタラクションの研究、デジタルファブ리케이션に関連する基礎理論や知的支援技術、システムの開発を進めている。	博士:研 修士:研
情報工学専攻(領域)	ラシキア 城治 LASHKIA,GEORGE 教授 理学博士	計算科学<Computational Science> 主に情報科学におけるIT分野の研究を行っている。基本的には、コンピュータの自己学習、ウェブコンピューティング、ネットワークセキュリティ、言語処理、最適化、ソフト開発など。	博士:研 修士:研

●情報システム工学専攻(領域)

分野	教員名等	専攻分野及び内容	担当※
情報工学専攻(領域)	上芝 智裕 UESHIBA, TOMOHIRO 准教授 専攻科	メディア・アート<Media Art> インタラクションやインターフェースの領域を中核としたメディアアートの研究と制作。コンピュータパワーやネットワーク資源を潤沢に手にすることが可能となった現在、[作者]—[作品]—[鑑賞者]間の相互作用に新たな質的变化の可能性を探り、作品の制作と発表との両面における新しいシステムの構築を研究テーマとしている。近年、softpad というグループ名義で、デザイン、Web、ビデオ、音楽等、ジャンルを越えた幅広い作品の制作及び発表を行っている。	修士:研補
情報工学専攻(領域)	鬼頭 信貴 KITO, NOBUTAKA 教授 博士(情報科学)	超高速・高信頼論理回路の設計自動化<Design automation of high-speed/dependable logic circuits> マイクロプロセッサなどの論理回路は回路素子の微細化により高性能間が進んだが、同時に消費電力の増大や、回路の動作時に誤りが生じるなどの問題が起こるようになった。そこで、2つの研究を進めている。一つは、低消費電力で高速動作が可能だが従来の半導体回路とは異なる性質を持つ超伝導単一磁束量子回路のための設計自動化手法の研究。もう一つは、一般の半導体回路について、回路の動作時の誤りを検出可能な論理回路や、故障に強い論理回路の設計とその自動化の研究である。	博士:研 修士:研
情報工学専攻(領域)	曾我部 哲也 SOGABE, TETSUYA 准教授 修士(デザイン工学)	メディア・アート<Media Art> 映像メディアを主に扱い、インスタレーション作品、実写映像作品、CG映像の研究と制作を行っている。また、障害を持つ人の芸術作品制作の支援を行っており、デジタルメディアを用いた活動支援についての研究にも取り組み始めている。	博士:講 修士:研
情報工学専攻(領域)	道満 恵介 DOMAN, KEISUKE 准教授 博士(情報科学)	人の行動支援のための画像処理<Image Processing to Support Human Activity> 画像処理・パターン認識の基礎技術、及び、それらを用いた人の行動支援への応用を専攻する。具体的には、自動車運転支援のための走行環境理解に関する技術として、車載カメラ映像からの物体検出・認識、ドライバの視覚認知状態の推定等を研究している。また、料理支援のための映像解析に関する技術として、調理動作の認識、調理過程映像の要約、料理レシピのマルチメディア化等を研究している。	博士:研補 修士:研
情報工学専攻(領域)	中 貴俊 NAKA, TAKATOSHI 准教授 博士(情報科学)	ICTメディア応用とインターネット<ICT and Media Applications> ネットワーク技術やコンピュータグラフィックス技術を中核として、スマートデバイスを含むICTメディアを活用した研究をする。具体的には、3DCGやネットワーク技術を活用したタブレット端末に向けたデジタル教材開発やその活用など、教育、芸術、産業界分野への幅広い社会応用についての研究を行っている。	博士:研補 修士:研
情報工学専攻(領域)	正木 彰伍 MASAKI, SHOGO 准教授 博士(理学)	計算宇宙論<Computational Cosmology> 我々が住むこの宇宙はどのように始まったのか?宇宙の構成要素は何か?宇宙における構造はどのように生まれ進化していくのか?これらの謎を解き明かすために本研究室では、スーパーコンピュータを使った大規模シミュレーションや数値計算、データ解析を主要なツールとして研究を行っている。	博士:講 修士:研
情報工学専攻(領域)	村田 晴美 MURATA, HARUMI 准教授 博士(工学)	音響信号処理<Acoustic Signal Processing> 音楽を対象とした情報処理に関する研究をしている。特に、インターネット上で不正に配信されることが多い音楽に対する著作権の保護を目的とした電子透かし技術について取り組んでいる。また、楽曲を自動で楽譜に書き起こす自動採譜に関連する研究も進めている。	博士:講 修士:研
情報工学専攻(領域)	兼松 篤子 KANEMATSU, ATSUKO 准教授 博士(社会学)	オープンデータと社会応用<Open Data and Social Applications> オープンデータとその社会応用に関する研究を行っている。また、デジタルファブリケーションの利活用にも興味を持っている。研究開発に加え、実際に地域へ出かけフィールドワークを行い、産官学連携による地域情報化などオープンデータ推進の取り組みを進めている。	博士:講 修士:研
情報工学専攻(領域)	董 然 DONG, RAN 准教授 博士(工学)	アフェクティブコンピューティング<Affective Computing> 人工知能やセンシングの技術の進化により、様々な分野でAIの活用が進められている。その中で、ニューラルネットワークを用いた深層学習は、最先端技術として特に注目されている。これらの技術を用いて、生体信号、音声、画像、ソーシャルメディアなどの情報を扱い、人間の感性や知能に関連するテーマについて幅広く研究を進めている。応用先は主に、芸術・メディア、コンピュータグラフィックス、ヒューマンロボットインタラクションなど。また、社会計算科学、数値シミュレーションなどの分野とも学際的な研究に取り組んでいる。	博士:講 修士:研
情報工学専攻(領域)	村田 匡輝 MURATA, MASAKI 講師 博士(情報科学)	自然言語処理<Natural Language Processing> 人間が日常的に用いる自然言語を対象とした研究を行う。具体的には、話し手の語りに寄り添う傾聴応答や、講演・授業などで利用される字幕生成といった、音声言語を基盤とした応用技術の開発に取り組む。大規模言語モデルやマルチモーダル情報などを活用して研究を進める。	博士:講 修士:研補

※担当について

博士:研……博士後期課程研究指導教員

修士:研……修士課程研究指導教員

博士:研補…博士後期課程研究指導補助教員

修士:研補…修士課程研究指導補助教員

博士:講……博士後期課程講義のみ担当教員

修士:講……修士課程講義のみ担当教員